

事業報告書

「避難所運営ゲーム～いざという時、あなたならどうする?～」

日時	令和8年2月3日(火) 13:30～15:30
目的	台風や大雨で幾度となく被災してきた沖縄県。今後も大きな災害に備え、日頃から、多様な立場の人々が防災、減災への具体的なアイデアを出し参画していく必要がある。この講座では、災害発生時の避難所運営を疑似体験することで、性別・年齢、障がいの有無、国籍に関係なく、いざという時の力にすることを目的とする。(第6次沖縄県男女共同参画計画 DEIGO プラン 3-1-36)
対象	自治体職員、避難所を開設する可能性のある企業・団体の方 防災に関心のある方
主催	沖縄県・公益財団法人おきなわ女性財団
講師	日本赤十字社沖縄県支部事業推進課 事業推進係長 崎山 翔平氏
会場	沖縄県男女共同参画センターていりる 3階研修室
定員	50名(申込者数:31名)
参加者	25名
講座内容(概要)	<p>「避難所運営ゲーム」とは、避難所運営をみんなで考えるためのアプローチとして、静岡県が開発した図上訓練(カードゲーム)です。まず講師の(日本赤十字社沖縄県支部事業推進課 事業推進係長 崎山 翔平氏)の講話の後、専用のカード等を用いてグループワークを行いました。</p> <p>導入のお話</p> <ul style="list-style-type: none">・日本赤十字社の事業紹介(医療・血液・福祉・救護・講習)と能登半島地震の救護活動の実例紹介。講師自身は発災から二週間後ぐらいから救護班として現地に入り、目が開けづらくなった高齢者のケアをしている様子や血圧の調整がうまくいかず救急搬送となった例、また数か月間トイレが使えなかった避難所もあったことなどを紹介した。・沖縄特有の制約として空港・港の復旧想定(空港約3日、港約5日)があるが、実際は更に遅延の可能性があることや物資供給の遅れ・配送困難性を前提に「長期化する避難所生活」を想定した方が良いだろうと述べた。 <p>グループワーク</p> <ul style="list-style-type: none">・避難所の平面図と避難者の情報が書かれたカードを使ったゲームで、避難所の受付をするメンバーとして、講師の合図で順番にカードをめくっていく。避難者それぞれの事情(家族構成、年齢、その他個別の事情など)や、次々に起こる避難所内の状況も考えながら、どこに避難者を配置するか等、限られた時間内にグループ内の人同士で意見を交わしながら避難所運営を疑似体験した。時に意見がぶつかり、時に「こっちの方がいいのに」と思いながらもメンバーに合わせたり、意見したりと避難所で実際に感じるであろう感情の揺れも疑似体験した。お互いの得意分野が活かされる場でもあるが、そこにはお互いの配慮があるのか等、どのグループも頭を悩ませながらゲームを進めていく。ある程度避難所がいっぱいになったあたりでゲームは終了。・講師と共にそれぞれのグループが避難所で配置した理由を一つ一つを検証していく。この人の状況ではこの部屋に配置したが、こちらのグループでは別の考えでこの人と同じ部屋にした等、グループごとに全く違う避難所の運営がされている姿が浮き彫りとなった。また、講師は避難者の中に看護師がいたことを取り上げ、「看護師がいることで医療技術もあり相談にも乗ってくれるかもしれないが、この人も被災者であり大切な人を亡くしているかもしれないという気持ちは忘れないようにしたい」と述べた。

	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時に女性が困った事例として、着替え場所の不足、洗濯物を干す場所、生理用品配布の係が男性で必要な生理用品をもらいにくい等を挙げ、避難所の運営には最初から女性に入ってもらい、女性としての意見を運営にきちんと反映させることが大切であるとした。また、実際の事例として、傾聴ボランティアが被災者一人一人に聞き取りを行い、何に困っているかを聞き取り、運営側がその要望しているものを把握するという避難所もあったと紹介。「ぜひ避難者一人一人の声を聞けるようにしてみてください」と述べた。 ・「避難所運営ゲームはあくまでもゲーム、実際の災害とは違います。今日は校舎内、何にも傷もなかったし、崩壊しそうなところもなかったですが、実際はもしかしたら津波で一部使えなくなっている、土砂崩れが起きそうなど他の要素も関わってくるかもしれない。また、体調不良者は熱があるかどうかも分からず、より対応が難しくなります」その上で、「災害時はどうせ困ります。」とし、その困り事を一つでも減らすために、日頃からの備え、例えば、備蓄のトイレがあったらそれだけでも解決の一つの手口になるので、「各一人ひとりがちゃんと日頃の備えをしておきましょう。そして、困った時は助け合えるように、周りとのお付き合い、もちろん地域でも職場でも助け合えるようにしておきましょう。そして覚えてもらいたいのが、災害時、避難所で生活する際は避難者みんなが動くこと。自治体の運営に任せきりにせず、自分が動くことを忘れないでほしい。」と講義を締めくくった。
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">参加者の声</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・阪神大震災の被災者でした。とても参考になりました。ありがとうございました。 ・災害がおきた時の初動について、ゲーム感覚で理解できたのでよかった。 ・職員や地域(自治体)などでも開催してほしいと思いました。また、地域ごとで行えば、非常に役立つと感じます。 ・問題点が整理されていてわかりやすかったです。
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">講座写真</p>	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="320 972 735 1279"> </div> <div data-bbox="900 972 1315 1279"> </div> </div> <p style="margin-top: 10px;">講師：日本赤十字社沖縄県支部 事業推進係長 崎山翔平氏</p> <p style="margin-left: 350px;">会場の様子</p>